

セケハラに寛容な
介護業界に違和感

**自慰行為グッズで高齢者の性に
真正面から向き合う**

イサービスを展開している株式会社いきいきらいふ（代表取締役社長＝日下部竜太氏）は、利用者からのセクハラを防ぐための方策の一つとして、利用者を対象にデイ



▲福住尚将氏

性の専門家TENGA
セクハラ研修を依頼

とくに介護業界は女性が多い職場である。女性が安心して働き続けられる場所でなければ離職にもつながりかねず、セクハラ問題に対処することは、働く人のセーフティネットとしても必要なことだ

を増やすなど気晴らしをする。3つ目が「スキンシップの活用」。介護職の倫理基準に反しない範囲で、手と手を合わせるなどして触れ合うことだ。4つ目が「性風俗店の利用や施設内での恋愛についての積極的黙認」。支援者は相談員のスタンスで当事者の自己決定を支援する。一般常識に鑑みれば必ずしも望ましいとはいえない関係や状態であっても、それが当事者のOOL向上に役立ち、周囲の迷惑にもなつていなければ、頭ごなしに否定せず、うまく黙認・マネジメントすることも必要との考えだ。

対しては、地域ケア会議で取り上げるなど「性の問題を俎上に載せてほしい」と要望する。また、ホームヘルパーについては、「目の前の利用者を自分と同じ人間であると認め、感情と欲求に寄り添う存在であつてほしい」と話す。

高齢者は加齢とともに心身の衰えと人間関係の希薄化、それらとともになう不安や孤独のなかで、「要介護者や患者としてではなく、一人の人間として受け入れてほしい」などの要求が強まり、それが性的行動につながっていく。利用者の性的行動は問題行動ではない、「理解して適切な対応をしてほしい」という支援者へのメッセージだととらえることが大切だと協調する坂爪氏。そのためにも「まずは『性の合理的配慮』から始めてほしい」と締めくくった。



▲参加者は男女のモデルを
デッサン(「ららーと」)
▲参加者全員の投票で決ま
「ららーと賞」の受賞作品



▲「高齢者の性」基礎研修

ショップ形式で学ぶ。

ショップ形式で学ぶ。
坂爪氏は冒頭、研修の目的について「正解」を求めるのではなく、「結論」を求める研修です」と

述べ、「各事例で提示されている
問い合わせについて唯一の正解はなく、

フリクシを紹介した。

ワーケーションの事例検討では、ストーカーをしてしまう男性高齢者の心理や高齢男性ストーカーが生み出される社会背景について紹介した。

述べ、「各事例で提示されている問い合わせについて唯一の正解はなく、講義で学んだポイントをガイドラインに、知恵を絞つて複数の結論を考えてほしい」と説明した。

さまざまな立場や角度から個々の事例を考え、高齢者の性に対し、ての理解を深めることが、現場で適切な支援を実践するためのトレーニングになるとの考え方のようだ。

ワーケーションの事例検討では、ストーカーをしてしまう男性高齢者の心理や高齢男性ストーカーが生み出される社会背景について考える「高齢者ストーカー」、介護職員に対する性的言動をとる利用者の心理や介護現場での対処法について考える「介護現場のセクハラ」など4つの事例について議論した。各事例には、年齢や職業、家族関係などリアリティのある設定がされている。そのうち「介護現場のセクハラ」について、記者も議論に参加した。

敬虔なクリスチヤンで、家庭内では妻としての役割を担ってきた女性。認知症発症後、主に女性利用者に対しても「おっぱい！」と叫び胸を露出する癖があり、ほかにも女性職員に対して性的な言葉を連発する。性的な言動をとる女性的心理や言動に対して介護現場の対処法を考える。

参加者4人の話し合いでは、「女性は最後まで“女”であり続けたのではないか」といった意見が出た。性的言動をとつてしまふ理由について、記者は「女性は生来

現場で実践可能な支援方法は4つ

研修終了後、高齢者の性のポイントをふまえたうえで、介護福祉のなかで実践できる性的支援などを坂爪氏に聞いた。

坂爪氏は介護・福祉の現場で実践可能な支援方法として4つを挙げる。1つ目が「プライバシーを保つ時間や空間の確保」。自宅や施設・病院等の場で、自慰行為や、夫婦や恋人と性行為ができる時間と空間を確保する。2つ目が「性的欲求の昇華」。外出や散歩の機会

セクハラ対策の取り組みにあたって、まず同社は、介護職員が利用者からセクハラを受けた際に上司に報告するようにした。するとセクハラに対する尺度が人に

いるというだけで、世間では“聖人君子”的ように思われ、利用者や家族からの迷惑行為に対しても慢を強いられることがある。

福住氏は常日頃から、介護サービスの利用者・家族といった立場を理由に、罪に問われる行為を行つたにも関わらず、決して罰せられることのない介護業界の不条理に違和感を覚えていた。

人材難の介護業界において、“利用者や家族だからセクハラをしても許される”といった考えが業界内に蔓延し続けると、これから先も世間では異常な業界だと思われ続ける、人材難の問題は解決しない。とくに介護業界は女性が多い職場である。女性が安心して働き続けられる場所でなければ離職にもつながりかねず、セクハラ問題に対することは、働く人のセーフティネットとしても必要なことだと判断した。

おもしろい性格で、認知症を患い本能で生きるようになつたため、周囲の笑いをどううと性的言動を繰り返すのではないか」と意見。一方ほかの参加者は、「(主に女性)に対する性的言動をとることから)この女性は他の女性に対して『自分のほうが女として魅力的で上だ』とアピールしているのではないか」と分析した。そして、現場の対応としては、介護職員が「おっぱいの形が綺麗ですね」などと褒めると性的言動が減るのではないかと提案した。ほかの参加者の意見を聞くことで、多角的視点の大切さに改めて気づかされた。



▲お菓子やジュースとともに並ぶ自慰行為グッズ

當陣でも「介護職員の離職につながるならば、販売を止めたほうがいいのではないか」と、見方が割れている。

セクハラ予防に効果はあつたのだろうか。残念ながら数値と

販売しているだけで、セグメント化されたサービスを提供していると誤解されてしまう。伝え方の難しさを感じたという。『思いつきや興味本位で販売しているのではない』と世間に伝えるためにも、高齢者の性についてエビデンスを収集し、学術的に高めていかなければならぬと思いました」と決意を述べる。今後もいきいきらいろでは、教育や研修を重ねるとともにメディアなども巻き込みながら、社

セクシーバな分野の問題は、人や家族が声を上げ、追随する介護事業者がいなければ変わらない。本人や家族に声を上げてもらうためにも、介護職員だけではなく、本人や家族を対象に高齢者の性の大切さについて啓発する研修を行いう必要があると考える福住氏。今までタブー扱いであった分野であるからこそ、「まずは話し合いから始めてほしい」と介護現場にアドバイスした。



▲「スーパーフィットカップ」

利用者からは好評
社内では賛否両論

行為をしたい』といった目標を掲げてもいいのではないでしょうか」と提案する。

スについて調べたところ、データは非常に少なく、行き着いた先が、自慰行為グッズを販売する株式会社TENGA（代表取締役社長＝松本光一氏）の社内ベンチャー企業である株式会社TENGAヘルスケア（取締役＝佐藤雅信氏）だった。

TENGAヘルスケアは、TENGAで培ってきたノウハウとともに、学会や医療・福祉・教育の専門家・機関と連携しながら、人々の性にまつわる諸問題を解決し、すべての人のセクシャルウェルネスの向上に貢献する会社である。高齢者の性について調べるうちに、「TENGA製品を使つて利用者からのセクハラを防ぐことができるのではないか」といったアイデアも浮かんだ。福住氏はさつそく同社に、介護職員を対象にしたセクシャルウェルネスの研修を依頼した。

研修は2018年4月に行われ、デイサービスの管理者やエリ

「TENGA製品の導入で想定される良い点や不安な点」をテーマにした参加者同士の議論の2本立て。

福住氏は、高齢者の性について介護職員から率直な意見を聞くため、研修を行う前にTENGAヘルスケア主導で参加者に無記名のアンケートを行つてもらつた。アンケート結果によると、参加者の約4割がセクハラを受けており、利用者と性に関する話をしたことのある人は約3割だった。TENGA製品の導入の是非については、反対する人が13%、賛成する人が24・6%、「わからない」と答えた人が62・3%と、導入に戸惑う声が大半だった。自由記入欄では「利用者の視点に立つて性の欲求不満を解決し、介護職員への欲求の一つなので利用者の反応をセクハラも回避できる可能性がある」「年齢を問わず、性は人間の欲望みたい」などと評価する声もある一方で、「利用者が勘違いをし、

自慰行為グッズを
デイサービスで販売

いつたデリケートな問題について話し合うには、性の専門家であるTENGAヘルスケアに第三者の立場で関わってもらうことが不可欠でした。あえて同社主導の研修にすることでの、研修内容の信憑性が高まったのではないでしょか」と説明する。

行為グッズ「iroha」もあるが、今のところ女性利用者からの要望がないため取り扱っていない。

女性からの要望がないことについて、福住氏は「TENG Aが2018年8月に大阪の老舗百貨店の期間限定ショップで『iroha』などを販売したところ、多くの女性客が来客して話題になつたようです。女性の潜在的な需要は高いと推察されますが、女性が性についてオープンに語ることは一般的でなく、また偏見もあります。とくに女性高齢者はまだ大声を上げにくいのかもしれません」と分析する。

デイサービスで取り扱いを始めたものの、どのようなタイミングで高齢者の性に関わればいいのかと悩んだ末に、いきいきらいふではアセスメントシートに、性について確認する項目を設けた。「利用者にとって性が大切でその人のQOLが向上するならば、『麻痺している右手をリハビリして自慰

よつて異なつていたために、さまざまの案件が集まつてしまつた。

アマネジヤー27人が受講した。内容は「高齢者に性欲はあるのか」といった高齢者の性に関する基本的知識、医学的観点からみた性のセルフケアの必要性、TENGA製品の使い方についての講義と、

セクハラを助長するおそれがある」「入浴サービスを提供する会社なので、TENGAの販売で風俗を連想させる」などと導入に慎重な意見も寄せられた。

別)、「スーパーファイットカップ」が750円(税別)で、すべて1回の使いきりとなっている。「スーパーファイットカップ」のほうが売れており、これまで6本を販売した。ちなみにTENG Aの商品ラ

性欲は3大欲求の一つ
まずは話し合いから

しての結果は出でていないが、スタッフのセクハラに対する意識は高まってきたと実感しているといふ福住氏。「正直、この取り組みがセクハラの予防につながっているのかというと、それはまだわからりません。しかし、セクハラの被害を受けている当事者自身が、まずは知識を身に付けないと次の行動につながらないのです」と説明する。

会全体で高齢者の性について考え
る風土を醸成していく考えだ。

「先日、ホームヘルパーとして
男性利用者宅を訪問したところ、
利用者が必死な様子で『DVDプ
レーヤーが壊れたので何とかして
ほしい』と相談してきたので、修
理の手は必ず整えました。プレー
ヤーが直つてその方は非常に喜
び、さっそくポルノ映画を観始め
ました。性は趣味嗜好の一つとと

卷之三